

3 「2020年国際学部のSDGsの取り組み」

宇大生によるオンラインSDGs映画上映会 座談会

2020年12月16日(水) 17:30-18:30

高橋 若菜

座談会参加者：浅野里帆(3年)、石山ちひろ(3年)
丸山浩平(1年)、吉田彩菜(1年)、張喬(博士後期課程1年)

オンライン映画上映会を始めたきっかけ

高橋：本研究室(環境と国際協力研究室)では、2020年7月から12月まで月1回のペースで、学生主体のオンラインSDGs映画上映会を開催してきました。コロナ感染拡大の状況下、学生や市民の方にもSDGsを学ぶ場を提供することを目指した、県内初のオンライン映画会です。

取り扱った映画は、Cinemo社が配給する環境やSDGsをテーマとする映画です。Cinemo社は、ZOOMを使ったオンライン映画上映会サービス始めていました。そこで、私がCinemo社と契約を締結し、学生さんたちが、映画の選定や、企画運営を行いました。この過程では、NPO法人うつのみや環境行動フォーラムなど、外部団体にもご協力いただいています。

映画会では、これまで、気候変動、再生可能エネルギー、種子と食、ファストファッ

ションの功罪、原子力事故と、多彩なテーマを扱ってきました。最終回の12月27日には、『幸せな経済学』という、集大成となるような映画を見る予定です。それに先立ち、今までの道を振り返り、映画会にかけた思いを、自由に語っていただければと思います。最初に、始めたきっかけについて思いを聞きます。リーダーの石山さんからお願いします。

石山：はい。私たちが所属するゼミでは、コロナの影響でフィールドワークに行けず、学んだことをアウトプットする場もなかったので、映画会により環境問題を知ってもらうことで、自宅にいながら地域のかたがたや学生の皆と交流することを目的にオンライン映画会を始めました。私はもともと映画が好きなので、映画を通じて何かを発信し、環境問題等を学べるのがすてきだと思い参加しました。



浅野：私は第1回から参加しています。環境問題が深刻化する中で多くの人に知ってもらいたい気持ちがあり、それを形にできるのが映画上映会なので参加しました。

張：私も第1回からゼミを通して参加しました。私はTAとして3年生ゼミに参加していて、ゼミでは映画会チームとCovid-19リテラシーチームの二つに分かれました。ごみ問題をテーマにした映画に興味があり、上映会チームに参加しました。

高橋：当初はゼミで始めましたが、後半になると、1、2年生のかたもボランティアとして数名、スタッフに入ってきてくれました。丸山さんは、何がきっかけでしたか？

丸山：私は第2回の『パワー・トゥ・ザ・ピープル』を見た際、ワークショップの終盤、グループディスカッションで、石山さんから誘われました。今もまだコロナの影響は残っていますが、サークルも動かず、授業外で何か活動をしたくてもできず、もどかしさを感じていた夏頃にも話をいただきました。当時は詳細を知りませんでした。取り組んでみたいという思いで参加しました。

吉田：私は参加者として第1回の『気候戦士』を見ました。もともと環境問題に興味があって宇都宮大学国際学部に入りましたが、授業を受けたくても今年は該当する授業がありませんでした。大学に入ってから環境問題に取り組みたいと思っていたので、運営側に入ればもっと学べると思い参加しました。

映画の選定

高橋：では、どのように映画を選び、準備を進めたのでしょうか？

石山：私たちのゼミでは主に環境問題を学んでいるので、気候問題の実情と、それに対する活動について発信しようと思い、第1回は

『気候戦士 CLIMATE WARRIORS』を選びました。それぞれのメンバーが興味のある映画を挙げた中から、皆で内容を確認して選んでいます。また、前とのつながりも考えて上映する順番等を決めています。映画を決めるにあたって偏りが出ないように、まずは気候問題を扱い、電気や食、衣服にもフォーカスすることで、環境問題は一つでないことを伝えられる内容を選びました。

高橋：第5回は、原子力事故についての映画でした。少し毛色が違いますが、選んだのはなぜですか？

石山：確かに原子力の問題は今までの映画とは違います。私たちは福島第一原発事故を経験しましたが、当時は小学生で、何となくしか状況を知らずに育ちました。でも、今まだ実際に大変な生活をしている被災者も多く、世界的にも大きな事故であったのに留学生より日本人である私たちの方が、むしろ知っていないくらいでした。日本に住む当事者である私たちは知らなければと思い、選びました。

映画会の企画と準備作業

高橋：映画会の準備は、どのように進めましたか？

石山：準備はほぼ全て、ZOOM、TEAMSなどを使ってオンラインで行いました。まず皆で映画鑑賞をし、重要な点や取り上げられた問題等について話し合った上で、チラシを作り、広報し、ワークショップの内容を決め、問題の解説と私たちができる具体的な行動を提案しています。その後、事前と事後のアンケートを作成し、参加してくださった方々が、上映会を通じて意識変化が起きたかについて調査を行っています。

高橋：毎月1本のスピードでしたから、上映会が終わったらすぐ次の映画の準備、と息をつ

く間もありませんでした。私も、始めた時は正直言って、6本も上映するとは思っていませんでした。学生さんたちの意気込みが大きかったですね。

日程調整や、ZOOM会議室の準備、申し込み取りまとめや案内など、裏側からよく支えてくれたのが、事務局です。学部生2人と、院生の張さんも事務局メンバーでした。

張：今回初めて、事務局のスタッフとしてメール対応等をしました。日本語も上手ではないので、メールチェックや、社会人や学生へ携帯メールを送るのにいろいろとミスがあり、心配しながらだったので時間がかかりました。最初はトライ・アンド・エラーでした。

みなさんも、第1、2回は、前日までワークショップのパワーポイントを修正していましたが、第3回からは慣れてきてスピードが上がったように感じています。

『気候戦士』、『パワートゥザピープル』

高橋：それでは、取り上げた映画について見ていきましょう。第1回は、『気候戦士』でした。

石山：『気候戦士』は初めてで何をすればよいか分からず手探りでしたが、ワークショップを作成する中で学ぶことがたくさんありました。第1回だけでも学びが多かったので、これから先も学ぶことはたくさんあるだろうと思いました。映画を見て知ったことも多く、自分で調べて学んだことをアウトプットする作業と、内容と事象を分かりやすく説明することがすごく大変でした。

高橋：石山さんが作ってくれたスライドは、アメリカのトランプ政権が、水も空気も汚れない世界一クリーンな国と宣言している裏で、石炭の採掘によりまさに環境が汚染されている、こちらですね。

宇大生による

オンラインSDGs映画上映会 第一弾



気候戦士

CLIMATE WARRIORS

気候変動を止める気候活動家たちの挑戦に密着したドキュメンタリー

主催：宇都宮大学国際学部 環境と国際協力研究室
 後援：特定非営利活動法人 つつのみや環境行動フォーラム
 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
 特定非営利活動法人 とちぎユースサポーターズネットワーク
 問合せ：uu.movieteam@gmail.com (宇都宮大学国際学部 高橋若菜研究室)


2020年
7月12日(日)
13:00-15:30

『気候戦士 クライメイト・ウォーリアーズ』
日本よ、これが気候戦士だ！


気候変動の科学を疑い、**自国の経済を優先**

- 全ての国が気候変動抑制を目指す**パリ協定**を脱退
- 2つの**パイプライン建設再開**の大統領令に署名
- メタンガス排出規制緩和**

→「石炭を採掘し産業を活性化」



「水も空気も汚れない」
「世界一クリーンな国だ」



“中国が地球温暖化を
でっちあげた”
“製造業の競争から
アメリカを排除するためだ”

**トランプ
政権**

石山：トランプ大統領が環境問題に積極的でないことは知っていましたが、詳しくは分かっていなかったもので、実態を知って驚きました。影響力のあるアメリカがこのような政策を行うと、世界はどうなってしまうだろうと思いました。その中でも、アーノルド・シュワルツェネッガー、映画に出てきた若い学生、同世代の活動家たちが、私たちの知らない場所でも活動を行っていることを知り、一人一人の行動にも影響力があると思いました。

吉田：私は、映画でトランプさんが悪者として描かれていたことが印象に残っています。誇

張ではありませんが、一国の大統領を悪く言ってもいいかと。

高橋：なるほど、日本では、上に立つ人や政治家をそこまで批判しないし、デモなども少ないのかもしれないかもしれませんね。政策は正しいと信頼しているのか、あるいは批判を避ける政治文化なのか。でもアメリカはその限りではないですね。

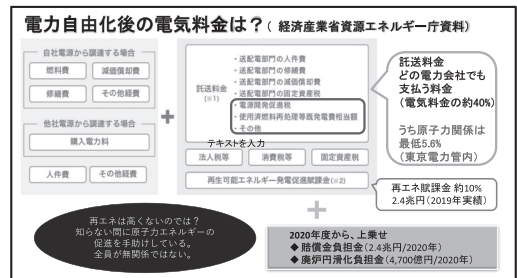
ただ実際は、日本もどうでしょうか。第二回の『パワートゥザピープル』では、ヨーロッパでは再生可能エネルギーが広がり、多様な取り組みが進んでいるのに、日本はなぜ進みにくいのか、疑問が出てきましたね。

浅野：エネルギー問題の知識はそれほどありませんでしたが、映画を見て、海外で再生可能エネルギーの導入が進んでいることを知り、電力を選べるようになった背景も知りました。実は、日本でも自由に選択できるようになったのに、再生可能エネルギーに目を向ける人が少なく、普及しないことに疑問を持

ちました。

高橋：その答えは見えてきましたか。

浅野：はい、電気料金を調べるうちに、自分たちが火力・原子力発電を使いたくないと思っても、そこに投資をしている現実を知って驚きました。また、実際は、火力・原子力発電について隠れた補助金などがあるのに、再生可能エネルギーだけ賦課金という名前がついて、お金がかかるというイメージを植え付けているのではないかと思います。まず、市民が仕組みを知り、何ができるかを知ることも大切だと思いました。



宇大生による
オンラインSDGs映画上映会 第2弾

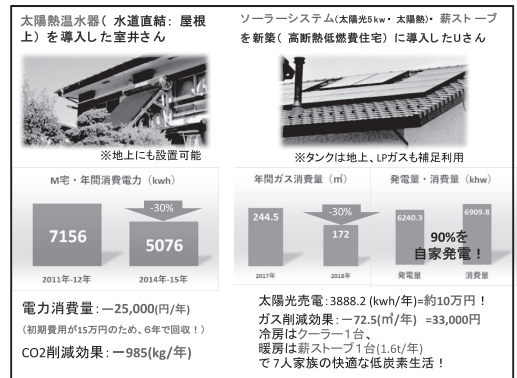
2020年
8月23日(日)
28日(金)
13:00-15:30

市民へ電気の主導権を

『パワートゥザピープル グローバルからローカルへ』

主催：宇都宮大学国際学部 環境と国際協力研究室
後援：NPO法人うつのみや環境行動フォーラム
宇都宮大学国際学部附属多文化公衆センター
NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
宇都宮市SDGs入りプラットフォーム

問い合わせ先：
uu_movieteam@gmail.com
Tel: 090-7265-5174
(平日9:00~16:00
不在時折り返します)



石山：NPOの方に協力していただき、日本で実際に行っている再生可能エネルギー転換を紹介してもらいました。テレビや冷蔵庫の設定を変えるだけで消費電力を抑えることができ、省エネルギーの仕組みを付ければ、家計の負担となる電気やガス料金も下がります。今までの節約や節電は我慢のイメージでしたが、我慢をせず費用も抑えられる方法なので、もっと積極的に取り組むことができ

としました。太陽光パネルや太陽熱の再生可能エネルギーを取り入れている方を知り、家は小規模なのでそれほど変わらないと思っていましたが、結果はそうではなく、むしろ消費電力を発電量が上回り、売電でお金を得られることが分かりました。意外と生活に役立つものが多いと思いました。

丸山：私は参加者として参加したのですが、環境問題は大きなことで手が届かないと思っていましたが、自分にも何かできると認識できたことは、今後の生活にとっても非常に意味深いものでした。

石山：運営側としては映画会で（参加者に）本当に伝わただろうかと心配していたので、さまざまな方法に気付き、生活に取り入れてみようと思ってもらえて、やりがいを感じるとともにうれしく思います。

『SEED 生命の糧』

高橋：次に、第3回『SEED』です。どのような問題を取り上げましたか？

石山：遺伝子組み換え、ハイブリッド種子、農薬と農業の問題を取り上げました。普通の生活では農家の方や農業に触れる機会もないので、どのような問題があるのか全く知らずに取り組みました。何が悪いのか知りませんでした。映画を見てワークショップを準備する中で、食べ物を消費する1人として考えなくてはならない問題がたくさんあると思いました。農薬や遺伝子組み換え作物による健康被害の問題だけではなく、政府と企業の癒着や元からある良い種子が減ることで、私たちの食べている野菜が農薬や遺伝子組み換えに侵される構造になっていることを知りました。一般の人はなかなか知る機会がない問題ではありますが、健康に関わる食生活として知らなければならぬ問題だと思いました。

宇大生による

オンラインSDGs映画上映会 第3弾

2020年

9月22日

(火・祝)

13:00-16:00

SEED 生命の糧

SEED THE UNFOLDED STORY

COLLECTIVE FILM MAKERS SEED THE UNFOLDED STORY IN ASSOCIATION WITH SINGAPORE'S PICTURE COMPANY
 DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY PRASHANT SINGH MUSIC BY GARY SEVENSON BALAJI PATTEROYER CHAI DANIEL RIVER
 EXECUTIVE PRODUCERS PRADEEP KUMAR PRITHVIRAJ SURESH PRODUCED BY PRADEEP SURESH ANIL RAO

主催：宇都宮大学国際学部 環境と国際協力研究室
 後援：NPO法人うつつのみや環境行動フォーラム
 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
 NPO法人とちぎユーススポーツネットワーク
 宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム

問い合わせ先：
 u.s.m. events@u-gm.ac.jp
 Tel: 080-7265-5174
 (平日9:00~16:00
 不在時折り返します)

高橋：まさに私たちの口に入るもの問題でもあり、世界の環境問題にも直結した問題でしたね。

『ザ・トゥルー・コスト〜ファストファッション真の代償』

高橋：第4回は『ザ・トゥルー・コスト』でしたね。

吉田：服を作るために犠牲があることは何となく知っていましたが、初めて見たときは痛々しく感じるほどの衝撃を受けました。見終わってすぐはそれほど変わりませんでした。情報が残っていました。情報だけのときはどこの服か知らずに買っていましたが、映像を見て衝撃を受け、学んだ後は買えなくなりました。洋服がまだ買えないぐらい印象に残っています。

高橋：ラナ・プラザの事故の映像は衝撃的でしたし、カンボジアのデモで人々が流血事件に遭う等、悲劇的なシーンが含まれた映画でし

宇大生による
オンラインSDGs映画上映会第4弾

2020年
10月25日
(SUN)
13:00 - 15:40

「安さの代償
安くない」

THE TRUE COST
あなたの服の本当のコスト 知っていますか？

華やかなファッション業界の裏側 知られざる真実とは？
ザ・トゥルー・コスト
ファストファッション 真の代償

主催：宇都宮大学国際学部 環境と国際協力研究室
後援：NPO法人うつのみや環境行動フォーラム
宇都宮大学国際学部附属多文化共生センター
NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
宇都宮市SDGs入づくりプラットフォーム

問題を解決できるのは「消費者」

〇プロパガンダに流されない

広告
↓
価値＝金、印象、地位、持ち物
↓
物質主義・所有欲が増す

「その服、本当に必要ですか？」
「その買い物、衝動買いじゃないですか？」
★買う前に、もう一度考えよう。

〇伝えよう
SNSで発信
友だち・家族に
自分自身と周囲の認識を変えるきっかけに…

〇意思をもった消費生活を
「買い物は企業への投票」
生産者や地球環境に優しい商品を選びよう

賢い消費で、未来を買いませんか？

た。吉田さんが言ってくれたように、映画を見て、人々の行動変化が最もはっきり現れた映画だったかと思えます。

張：はい。事前アンケートでも、ファッション業界と環境問題は関係があると答えた人はいましたが、少数でした。事後アンケートでは人数が増え、これからのファッション業界やショッピングについては、ほとんどの人がフェアトレードの商品や地産地消である国産のものを買うと、意識の転換がありました。長持ちする服を買い、大事に長く着る、服を大切にすると答えた人も多かったです。

吉田：私も買ってみようと思って調べました。行ってみようと思って。ただ、すごく高いと思ってしまって。

丸山：その関連で言えば、私がファシリテーターをしたグループでは、古着という話も出ました。ただ、響きや、古いという字が良くないという話が出ました。ユーズドという言葉にフェーズチェンジをという話が出たのを覚えています。

高橋：今やセカンドハンド市場も大きく、安くクオリティーの高いものが買えるので、若者にも人気ですね。循環型社会とよく言いますが、新品を大量に早く循環させるのではなく、人に差し上げたり、メンテナンスをしたり、作り変えたり、循環をゆっくり多様に回していくことが大切でしょうね。

『HUG～抱く～』

高橋：次は『HUG』です。この映画は、上映を決めた後に、私も含めて全員が、初めて映画を見ました。直後に、リーダーの石山さん

宇大生による
オンラインSDGs映画上映会 第5弾

2020年
11月23日
(月・祝)
13:00-16:00

「抱くHUG」
見えない恐怖から
子供を守りたかった

〃 海南 友子

抱く(HUG)

生まれる 新しい命のために
私はどんな未来を描けるのだろうか？

主催：宇都宮大学国際学部 環境と国際協力 (高橋若菜) 研究室 問い合わせ先：
福島原発震災に関する研究フォーラム uu.movieteam@gmail.com
後援：NPO法人うつのみや環境行動フォーラム Tel: 080-7265-5174
宇都宮大学国際学部附属多文化共生センター
NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク (平日9:00~16:00
宇都宮市SDGs入づくりプラットフォーム 不在時折り返します)

が「今回は自信がない」と言ったことが印象に残っています。

石山：内容が本当にショッキングでした。当時は小学生でしたが、ニュース映像を見て自然と泣いてしまったことを思い出し、自覚してないだけで心に残っている出来事なのだと思います。

高橋：昔のことを思い出されたのですね。その中でよく持ち直して取り組んだと思います。

石山：授業で原子力発電所については学んでいましたが、知らないことも多く、当時の母親たちが置かれた状況を分かっていなかったことに気がきました。原子力は私たちの身近でもある一方で非常に危険でもあるのに、日本では進められていることに驚きました。また、原子力発電所が身近にあるとは思っていませんでしたが、地図や当時の分布マップと比較して自分の住んでいる場所も安全ではないことを知り、危機感を持って生活したいと思いました。あとは、原子力を推進する政府ではなく、再生可能エネルギーを推進する団体等に支援ができればと思いました。

丸山：石山さんが言ったとおり、原子力発電所の位置が印象に残っています。地元である宇都宮にも近く、万が一事故があった時は、どこに逃げればよいのだろうと思いました。そして、自分が担当したこともあって、処分場の取り消しで指定廃棄物をどうするのか、印象に残りました。今まではニュースで

見ても処分場にならずよかったと思うだけで、廃棄物がどうなるかまで考えてなかったので、新しい気付きを得ました。栃木県だけでも1万トンを超える指定廃棄物が出ており、どこで処分するかが決まっていないなど、未解決のことがまだまだたくさんあります。

高橋：事故後10年近くになり、もはやメディアでもあまり取り上げられなくなりましたが、ふるさと剥奪、避難者の生活破壊は続いています。汚染水海洋流出、デブリ取り出しなど未解決問題も山積んでいます。私たちはどのエネルギーを選択するかに際して、よく考慮する必要がありますね。

全体をふりかえって

丸山：自分はワークショップ準備のための調査を通じて、ある程度の理解ができましたが、映画しか見ていない人に分かりやすく伝えるにはどのような資料を作成すればよい

放射線物質により汚染された廃棄物はどのように処理するのか？

処理基準 (Bq/kg)

- 濃度前: 100
- 濃度後: 8,000

→ 8,000Bq/kg以上は指定廃棄物として処分

※高橋義典2015年6月13日

|| 指定廃棄物の長期管理施設選定をめぐって各県で議論が紛糾

宇大生による

オンラインSDGs映画上映会 最終回

2020年
12月27日 (日)
13:00-15:50

「幸せの経済学」
操られる「幸せ」

人や自然とのつながりを取り戻す暮らし方を探るドキュメンタリー

「Economics of Happiness」
幸せの経済学

今、問われる幸せとは？ 真の豊かさとは？

監督：ヘレン・ノーバーク・ヘッジ (ラダック懐かしい未実・匿名)
スチーフン・ゴロウック・ジャンベージ

出演：ヘレン・ノーバーク・ヘッジ、アグニタ・シリア、正部一ほか

制作：SDGs映画制作委員会 | 制作：SDGs映画制作委員会

All ISEC Production

主催：宇都宮大学国際学部 環境と国際協力 (高橋若菜) 研究室
後援：NPO法人うつのみや環境行動フォーラム
宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター
NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

問い合わせ先：
uu.movieteam@gmail.com
Tel: 080-7265-5174
(平日9:00~16:00
不在時折り返しします)

か、悩みました。パワーポイントの作業を一度完成させた後に深夜に起き、再確認して悩んだりもしました。結局は、ほとんど変えませんでした。どのように伝わるのか意識したことが苦労した点です。

浅野：お客さんの知識や経験に差がある中で、内容を薄くするのではなく、でも初めて聞いた人にも伝わるのかを常に考えましょう、と最初のワークショップから言われました。この言葉であれば伝わる、この内容は説明を入れないと分からないだろうといろいろな想像を膨らませ、聞く人の抵抗なく知識として入る方法を考えるよう伝えました。

高橋：スライドは必ず疑問形で投げかけ、核心をついた答えを用意し、その根拠を分かりやすくビジュアルに示す、ようにお伝えしていましたね。

吉田：自分が求める資料を探し出すことも、すごく難しかったです。より詳しい説明や証拠付けをする上で、必要な情報が出てこないことが一番大変でした。今回の『幸せの経済学』では、政府が特定の事業に助成金を出すことを取り上げていて、同じことが日本でも起こっていると考え、自由貿易を促進している証拠が欲しかったのですが、私が検索した範囲では見つかりませんでした。

高橋：そうですね、いつも常に分かりやすく情報がまとまっているわけではないので、自分で一から探すことは苦労が多いですね。ある意味で卒業論文を作るのと同様の作業で、問いを立てデータを集め、問題に接近し、明らかにするという事です。容易ではないけれど、その分、新しい知見が得られる喜びはあるのかもしれません。

石山：地球上には本当にいろいろな問題があり、身近で自分に影響がある問題もたくさんあることや、解決する方法を知ることができたのは、すごく良かったと思います。コロナ

で学生同士の交流や皆で作りに上げるのが難しかったので、深夜まで一緒に作業することも学生らしくて楽しかったです。

高橋：私も何度かお付き合いしましたが、まさか深夜まで作業するとは思いませんでしたね。浅野さんは、寝てたこともありましたね。いかがですか？

浅野：良いことしかありませんでした。環境問題は内容が幅広く、何から取り組めばよいか悩んでいる部分もあったので、映画会を通して自分自身も学べてよかったと思います。対面で会えない分、オンラインでつながって、良い時間だったと思います。

丸山：学年を越えた交流がすごく良かったです。今までは部活ぐらいでしたが、一緒に学ぶという部分で新鮮な感じがしました。自分で作ったパワーポイント先輩がたに直してもらうことがほとんどなかったのと、単位が出ないという意味で義務ではない環境下で、先生に近い距離で学べたことが良かったです。

吉田：先生はもちろん、知識がたくさんある先輩がたに教えてもらい、意見を共有しながら理解を深められるのはすごく良い機会だと思っています。

高橋：1年生が、最初から3年生のゼミに入ってきてくれたような感じでしたね。夜遅くまで大変だった時もあるし、実は、もうやりたくないと思っていないませんか（笑）。

吉田・丸山：大丈夫です（笑）。

浅野：スキルもずいぶん磨かれたと思います。パワーポイントでの資料作りはTEAMSを使った共同編集で、意見交換をするにはJamboardを使ったり、今まで自分のスキルになかったことを吸収でき、映画の内容だけではなく周りの面からも良かったと感じています。

張：事前事後アンケートは、Surveymonkeyで

取って、Excelで分析しPowerpointにまとめました。とても勉強になりました。

あと、いろいろと体験したことが自分の力になりました。上映会のディスカッションでは、同じグループに留学経験のある方が多かったので多文化交流になりました。

高橋：NPOの人、外部の社会人、高校生、大学生等、たくさんの人たちが来てくれて、多様性溢れる意見を聞いたのも面白かったですね。下野新聞など、マスコミも取り上げてくれましたね。

石山：ミヤラジに出演したのも、いい思い出です。

今後への思い

高橋：最後に、今後への思い、考え方が変わったこと等あれば、お聞かせください。

浅野：一番の変化は、自分の周りや日常生活に環境問題があふれていることに気付けたことです。『SEED』では食品について考え、遺伝子組み換えに気を付けて買い物をするようになり、『ザ・トゥルー・コスト』では、大量の服を買うことに疑問を感じて選択を迫られるような感覚があるので、そのようなことを日常的に考えられるようになってよかったですと思います。これからも意識して過ごしたい

と思います。

丸山：自分が行動しなければいけないと使命感を感じ、少しずつ自分の中の軸がはっきりとしたので、学びの方向付けができるようになったと思います。

張：専門的で自分からは遠いと思っていた問題が、実は身近に存在し、毎日の小さな変化が社会に対する大きな進歩であると実感しました。

石山：毎回、私たちにできることを提案したので、環境問題に対して自分の生活を見つめ直し、行動に移すことへのハードルが下がったと思います。スーパーマーケットでの買い物や服を買うときには表示を見て、環境に配慮されたものやマークを探す等、実際に生活が変わったと思います。SDGsのマークやゴールは授業でも取り上げられたので知っていましたが、何をすればよいのか、具体的にどのような問題があるのかを知れてよかったと思います。参加してくださった方にも映画会を通してSDGsを知ってもらい、世界全体でゴールを目指せば、もっと変わっていくのではと思います。

高橋：SDGsにかけて、締め括ってくださいました。皆さん、どうもありがとうございました。

上映映画一覧

回数/実施日	映画題名 ～サブタイトル～	参加者数 実績	映画概要
第1弾 (7/12)	気候戦士 ～日本よ、これが気候戦士だ～	61名	気候変動を止める気候活動家たちの挑戦に密着したドキュメンタリー。脱炭素社会がなぜ必要かを学び、持続可能な社会実現のヒントを得られる。
第2弾 (8/23,8/28)	パワー・トゥ・ザ・ピープル ～市民へ電気の主導権を～	50名	市民のパワーを活かした、分散型エネルギー社会に着目した映画。再生可能エネルギーの可能性を教えてくれる。(NPO法人うつのみや環境行動フォーラムの三宅氏・室井氏・今出氏・大沼氏とも共同発表)
第3弾 (9/22)	シード 生命の糧 ～未来の食を守る～	40名	種子の多様性が奪われ、私たちが生きていく上で必要な「食」に危機が迫っていることを伝える映画。食物と種と健康を守る大切さやその方法を学べる。
第4弾 (10/25)	ザ・トゥルー・コスト ファストファッション 真の代償 ～安さの代償、安くない～	52名	現在のファッション産業は、地球で2番目の汚染原因であり、環境破壊や人権侵害を広げていることを伝える映画。事実を知り、私たちにできることを考える。(シャプラニールの天知氏と共同発表)
第5弾 (11/23)	抱く HUG ～見えない恐怖から、子供を守りたかった～	43名	原発事故に苦しめられる人々の思いや恐怖を描いたドキュメンタリー。目を背けずに、電気の消費者として考える機会を提供してくれる。(福島原発に関する研究フォーラム清水奈名子准教授解説)
第6弾 (12/27)	幸せの経済学 ～グローバル化に操られる「幸せ」～	38名	グローバル化による恩恵を受ける一方で、経済格差、環境破壊などの負の側面にも目を向け、解決策としてローカリゼーションを提起する映画。本当の幸せは何かを考えるきっかけを提供する。
	合計参加人数	284名	

映画会構成：第1部 挨拶、事前アンケート紹介、映画鑑賞

第2部 ワークショップ(映画解説・私たちにできることの発表とディスカッション)

主催：宇都宮大学国際学部 環境と国際協力研究室、福島原発震災に関する研究フォーラム(第5弾)

後援：特定非営利活動法人うつのみや環境行動フォーラム、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター、特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク、宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム、シャプラニールとちぎ掛け橋の会(第4段)

メディア報道：下野新聞(2020年7月3日、10月20日) Radioberry ミヤラジ(2020年8月22日)